



新しいスバルの創造

富士重工業株式会社 代表取締役社長

森 郁夫

当社は、今年「2007-2010年度 新中期経営計画」を発表し、その中であらためて「スバルらしさの追及」を掲げました。

スバルだからできること、スバルらしさとは何かを追求しながら、すべてのお客様に満足していただけるような魅力的な価値を提案してまいります。

当社では、これまでレガシィをはじめとする、水平対向エンジンを核としたシンメトリカルAWDのコア技術をベースに、スバルならではの楽しい走りと高い安全性を磨いてきました。それは、「走りを極めれば、安全になる」という独自の安全思想に基づくものです。

今後のスバルのクルマづくりの方向性として、これまでの思想に加えて、「快適・信頼の新しい走り」と地球環境の融合」を掲げました。運転する人だけでなく、乗る人すべてが気持ちいいと感じる快適な走り、安全で安心できる信頼の走り、業界トップレベルの環境性能を追求してまいります。

この新しい走りの方向性を具現化した第1弾が、6月に発売しました新型インプレッサです。

第3世代となる新型インプレッサは、シンメトリカルAWDや新たに採用した「SI (SUBARU Intelligent) -シャーシ」のコンセプトに基づくボディやサスペンションにより、しなやかで自然と一体となるような懐の深い走りを実現し、お客様からも高いご評価をいただいで

おります。

これは同時に、あらゆる条件、状況においてもすべてのお客様がクルマに信頼を置いて、思い通りに安心して運転を愉しんでいただけることを目指したクルマの実現でもあります。

スバルは、こうしたクルマの基本性能の追求により「快適・信頼」の走りを創り上げております。

一方で、実際の交通環境ではドライバーの疲労や誤操作、歩行者の飛び出しなどの不測の事態をなくすことは出来ません。こうした状況でもお客様に究極の安全をご提供することこそ、当社が目指す「安心で信頼できる走り」に繋がると考えています。

スバルでは、予防安全技術としてステレオカメラによる画像認識技術の可能性に早くから着目し、20年来



インプレッサ S-GT



新ステレオカメラ(開発用試作品)

研究開発を重ね、10月に「次世代ADA(アクティブ・ドライビング・アシスト)」を発表いたしました。

次世代ADAは、画像処理能力と認識性能を向上することで、世界初となる極低速域での追突事故や事故頻度の高いオフセット衝突にも対応しています。

さらに、カメラと制御ユニットを統合することで大幅にコスト低減と小型化を図ったことが特長です。そして、このシステムを2008年に量産車に搭載いたします。

このシステムをできるだけ広く普及させることで、人に優しい交通社会の実現が近づくと考えます。

環境面においては、地球に優しい独自の技術として、次世代バッテリーや電気自動車の開発、新しいCVTや水平対向ディーゼルエンジンの商品化、燃費や排ガスの改善などを着実に進め、社会的責任である環境に優しいクルマづくりにも積極的に取り組んで参ります。

当社はこれまで将来動力源のキーデバイスとして、2次電池の開発に注力し、走行中のCO₂を全く排出しない電気自動車を開発しています。東京電力と共同開発を進めている電気自動車「R1e」は、現在までに40台を納入し都市部を中心に実用テストを行なっています。そして、現在開発を進めている次世代リチウムイオンバッテリーは、スバルの独自技術で正極にバナジウム材料を使うことで、従来材に比べ2～3倍のリチウムイオンを蓄えることができます。さらにリチウムイオンを効率的に電極に取り込む技術により、同重量のマンガン系リチウムイオンバッテリーに比べ、エネルギー密度を約2倍に高めています。



水平対向ターボディーゼルエンジン

このバッテリーを電気自動車に搭載すれば、1回の充電でR1eの2倍以上となる200kmの走行が可能になります。しかも、急速充電器を使えば15分で80%の充電が可能となり、利便性も高く行動範囲が広がります。

また、走りと環境を両立した世界初となる水平対向ディーゼルトーボエンジンを2008年より欧州市場にて発売いたします。

水平対向レイアウトが持つ本来のメリットである低重心、低振動、軽量、高剛性という特徴を活かしながら、ディーゼルエンジンの力強く、粘りのある優れた加速性能により、ガソリン車から乗り換えても違和感のない、スムーズで自然な走行フィーリングを実現しています。環境面では、高い熱効率による良好な燃費に加え、ターボチャージャーの直後に配置した触媒による排ガス浄化性能の向上により、優れた環境性能を確保しています。走りと経済性、環境性能に優れるパワーユニットです。

今後こうしたスバルのクルマづくりの考え方を織り込んだ商品を発売し、グローバル市場でお客様に提案してまいります。

1958年、日本のモータリゼーションとともに多くのお客様に愛されてきましたスバル初の量産車「スバル360」を発売して以来、来年で50年を迎えます。これまで多くのお客様に支えられながらも変わらぬ思想と情熱でクルマの理想を追い求めてきました。

これからも、より多くのお客様にご満足いただけるよう、新たな理想に向かってチャレンジしてまいります。